Your Reliable Partner

IG-80 シリーズ

(IG-80, IG-81)

Intel Pentium 4 *システムボード*

Socket 775

ユーザーマニュアル

Rev. 1.01

著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

目　次

第 1 章　はじめに 1-1
1-1. 機能と仕様 1-1
1-2. レイアウトの図表 1-3

第 2 章　ハードウェアのセットアップ 2-1
2-1. マザーボードのインストール 2-1
2-2. CPU、ヒートシンク、ファン部品のインストール 2-2
2-3. システムメモリの取付け 2-4
2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ 2-6
(1). ATX 電源入力コネクタ 2-6
(2). FAN コネクタ 2-7
(3). CMOS メモリクリアリングヘッダ 2-8
(4). ウェークアップヘッダ 2-9
(5). フロントパネルオーディオ接続ヘッダ 2-10
(6). フロントパネルスイッチとインジケータヘッダ 2-11
(7). 追加 IEEE1394 ポートヘッダ *(IG-80)* 2-12
(8). 追加 USB ポートヘッダ 2-13
(9). システム管理バスヘッダ 2-14
(10). 内部オーディオコネクタ 2-14
(11). フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ 2-15
(12). シリアル ATA コネクタ 2-16
(13). PCI Express X16 スロット 2-17
(14). PCI Express X1 スロット 2-17
(15). バックパネルのコネクタ 2-18

第 3 章　BIOS について 3-1
3-1. SoftMenu Setup 3-2
3-2. Standard CMOS Features 3-4
3-3. Advanced BIOS Features 3-7
3-4. Advanced Chipset Features 3-10
3-5. Integrated Peripherals 3-12
3-6. Power Management Setup 3-17

3-7. PnP/PCI Configurations 3-20
3-8. PC Health Status 3-22
3-9. Load Fail-Safe Defaults 3-24
3-10. Load Optimized Defaults 3-24
3-11. Set Password 3-24
3-12. Save & Exit Setup 3-24
3-13. Exit Without Saving 3-24

第 4 章 ドライバのインストール 4-1

4-1. セットアップアイテム 4-2

付録 A. テクニカルサポートの受け方について A-1

第 1 章　はじめに

1-1. 機能と仕様

1. **CPU**
   - Intel LGA775 プロセッサ 800MHz FSB サポート
   - Intel ハイパースレッドテクノロジ（Hyper-Threading Technology）をサポート
2. チップセット
   - Intel 915G / Intel ICH6
3. メモリ
   - 2 つの 184 ピン DIMM ソケット
   - デュアルチャンネル DDR400 非 ECC バッファなしメモリをサポート
   - 最大 2GB の最大メモリ容量をサポート
4. グラフィックポート
   - 統合された Intel グラフィックスメディアアクセラレータ 900 は、DirectX 9 をサポートします。
5. **PCI-Express**
   - 次世代の I/O アーキテクチャのための PCI-Express X1
   - 次世代のグラフィック･アーキテクチャのための PCI-Express X16
6. **SATA 150**
   - 4 ポートのシリアル ATA 1.5Gbps データ転送速度をサポート
7. オーディオ
   - オンボード 6 チャンネルオーディオ CODEC
8. **IEEE 1394 *(IG-80)***
   - 2 ポート IEEE 1394 に 100/200/400 Mb/秒の転送速度で対応
9. **Gigabit LAN**
   - オンボード Gigabit PCI LAN コントローラ
10. **ABIT** 開発元
    - ABIT SoftMenu™ テクノロジー
11. 内部 **I/O** コネクタ
    - 1x PCI-Express X16 スロット
    - 1x PCI-Express X1 スロット

- 2x PCI スロット
- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート
- 1x Ultra ATA/100/66/33 コネクタ
- 4x SATA 150 コネクタ
- 2x USB 2.0 ヘッダ
- 1x IEEE 1394 ヘッダ*(IG-80)*
- 1x FP-Audio ヘッダ
- 1x CD-IN ヘッダ

12. 背面パネル **I/O**

- 1x PS/2 キーボード、1x PS/2 マウス
- 1x シリアルポートコネクタ, 1x パラレルポートコネクタ
- 1x VGA コネクタ
- 1x AUDIO コネクタ (Mic-In、ライン入力、ライン出力)
- 4x USB 2.0 コネクタ
- 1x IEEE 1394 コネクタ*(IG-80)*
- 1x RJ-45 LAN コネクタ

13. その他

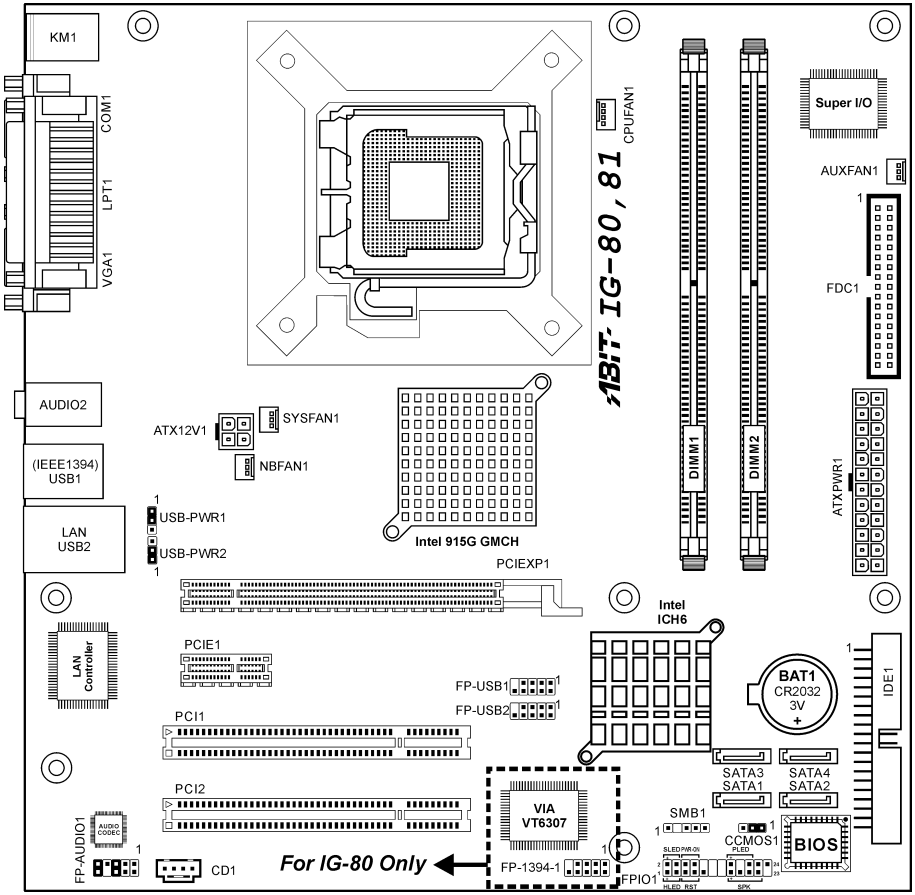
- mATX フォームファクタ (245mm x 245mm)

14. オーダー情報

モデル	機能
IG-80	GbE LAN, IEEE1394
IG-81	GbE LAN

❈ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

1-2. レイアウトの図表


KM1
COM1
LPT1
VGA1
AUDIO2
(IEEE1394)
USB1
LAN
USB2
ATX12V1
SYSFAN1
NBFAN1
USB-PWR1
USB-PWR2
Intel 915G GMCH
PCIEXP1
CPUFAN1
1BIT- IG-80,81
DIMM1
DIMM2
Super I/O
AUXFAN1
FDC1
ATXPWR1
Intel
ICH6
LAN
Controller
PCIE1
PCI1
PCI2
FP-USB1
FP-USB2
BAT1
CR2032
3V
IDE1
SATA3
SATA1
SATA4
SATA2
SMB1
CCMOS1
BIOS
VIA
VT6307
FP-1394-1
FPIO1
FP-AUDIO1
AUDIO
CODEC
CD1
For IG-80 Only

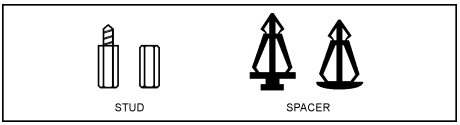
MEMO

第 2 章　ハードウェアのセットアップ

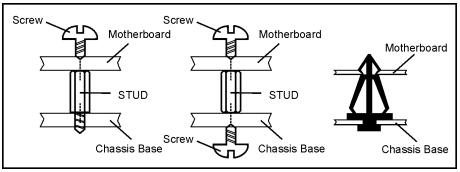
取付けを開始する前に：ATX12V の電源装置のスイッチをオフにする(+5V スタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の 2 つの方法があります。



1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する



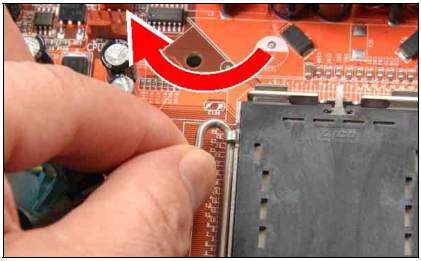
原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終えたら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。

注意：PCB サーキットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサがすでにシャーシ台にしっかり取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサを取り外してください。

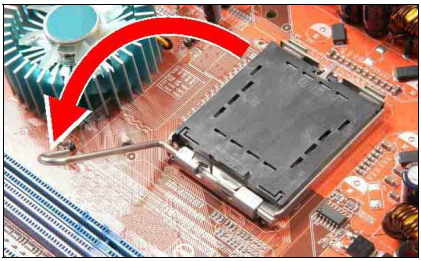
2-2. CPU、ヒートシンク、ファン部品のインストール

接触ピンを保護するため、以下にご注意ください。

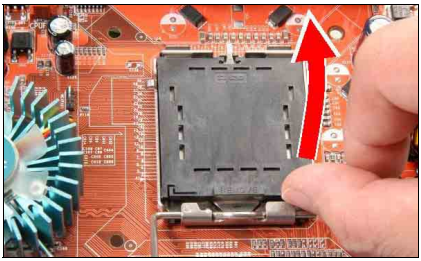
1. *最大 20 周期の CPU インストールをお勧めします。*
2. *指やその他の物で接触ピンに触れないでください。*
3. *CPU を使用していない場合は、常にキャップをかぶせてください。*



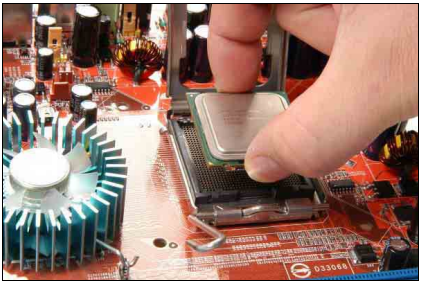
1. ソケットのレバーフックが左側になるようにボードを置いてください。左手の親指と指先でレバーフックを持ち、リテンションタブから引いてください。



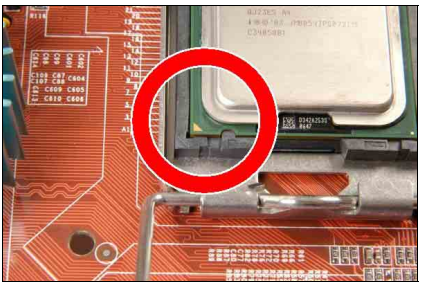
2. レバーを完全に開く位置に回転させてください。



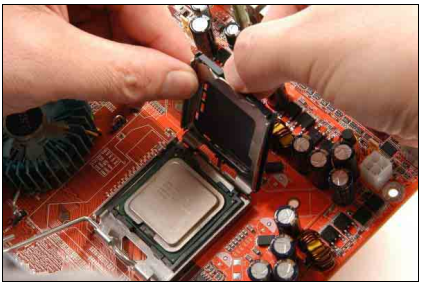
3. プレートの右下に右手の親指をあてがい、完全に開く場所に持ち上げてください。



4. 右手の親指と指先で CPU パッケージを持ってください。必ず基板の端を持ち、ピン 1 の標示が底部左側を向くようにしてください。ソケットの位置を確認し、CPU パッケージをソケットにまっすぐ置いてください。

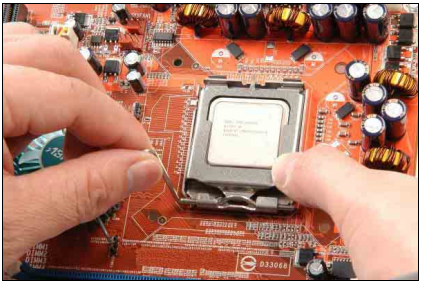


5. CPU がソケットにしっかりと固定されているかどうかを目で確認してください。配列キーはパッケージのノッチにある必要があります。



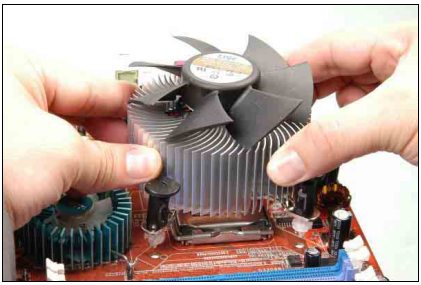
6. 左手でプレートを持ち、右手の親指でキャップを剥がします。

キャップは接触ピンを保護する上で非常に大切です。ピンが曲がらないよう、操作やテストの後はキャップをかぶせておいてください。



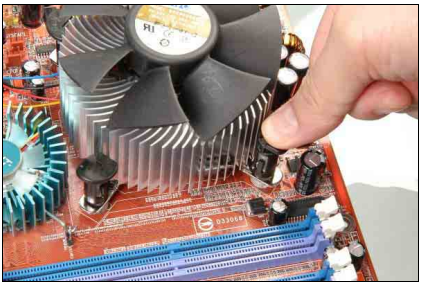
7. CPU パッケージのプレートを提げます。プレートを押しながら、レバーをはめてください。

8. リテンションタブ下のフックでレバーを固定してください。

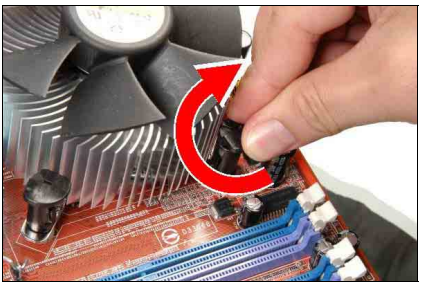


9. ヒートシンクとファン部品をソケットに置いてください。4 つの締め具をマザーボード上の 4 つのマウントホールに向けて並べます。

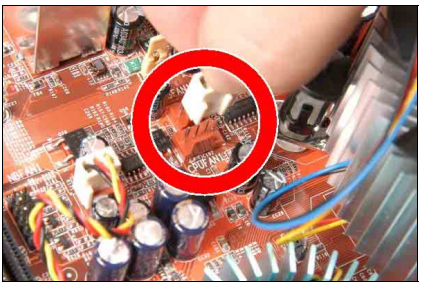
ヒートシンクとファン部品のインストールに関する詳細は、お買い上げのヒートシンクとファン部品の取扱説明書をご覧ください。



10. 4 つの締め具をマウントホールに押し込んでください。



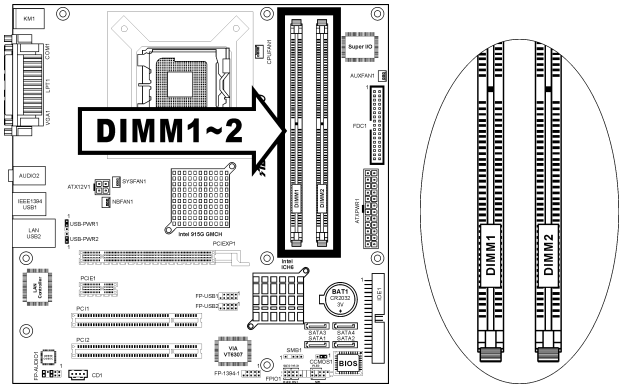
11. 締め具を時計回りに回転させ、ヒートシンクとファン部品を所定の位置に固定してください。



12. 4 ピンの電源プラグをヒートシンクとファン部品から CPU FAN コネクタに接続します。

2-3. システムメモリの取付け

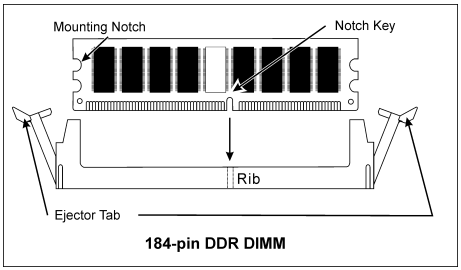
本マザーボードは、2GB までのメモリ拡張サイズを持つ、デュアルチャネル DDR 400/333 メモリモジュール用に、2 つの 184 ピン DDR DIMM スロットを提供します。



バンク	メモリモジュール	合計
Bank 0, 1 (DIMM1)	256, 512MB, 1GB	256MB ~ 1GB
Bank 2, 3 (DIMM2)	256, 512MB, 1GB	256MB ~ 1GB
システムメモリの合計		256MB ~ 2GB

注 : メモリモジュールを取り付けたり、取り外したりした後は、ハードウェアや BIOS セットアップの必要はありませんが、互換性に関する問題が生じた場合はまず CMOS メモリを消去してください。

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにして AC 電源コードを抜いてください。



1. ボードの DIMM スロットを探します。
2. DIMM モジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリブに合わせます。
4. モジュールをスロットにしっかり押すと、スロットの両側のイジェクタタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMM モジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMM モジュールは一方向にだけフィットするようになっています。
5. DIMM モジュールを取り外すには、スロットの 2 つのイジェクタタブを同時に外側に押してから、DIMM モジュールを取り出します。

注意:静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

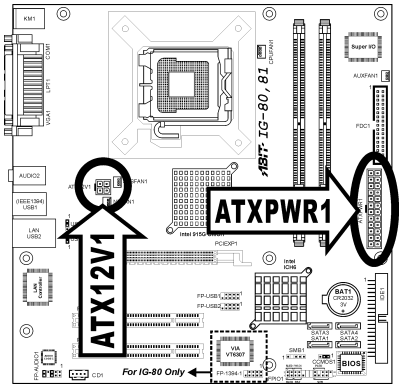
ここには、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第 1 章に示します。

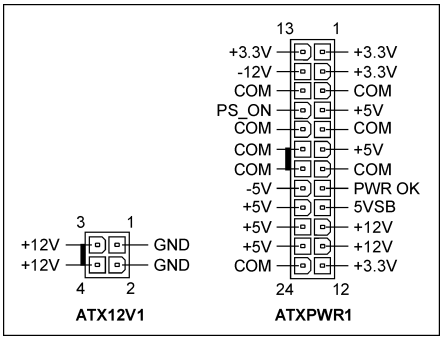
警告 : 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、AC アダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC 電源コードのプラグを差し込んでください。

(1). ATX 電源入力コネクタ

このマザーボードは ATX12V 電源接続のための 2 つの電源コネクタを提供しています。

注 : この 24 ピン電源コネクタ “ATXPWR1” は旧 20 ピンタイプに対応しています。その際、ピンの方向に注意してください（ピン 11、12、23、24 は未接続のままとなります）。



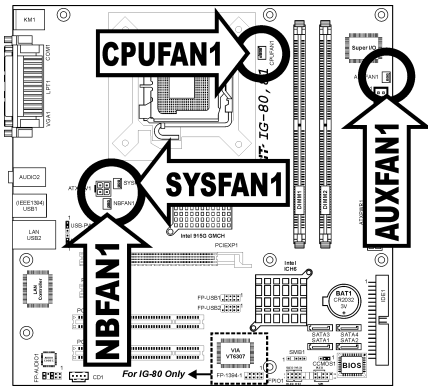


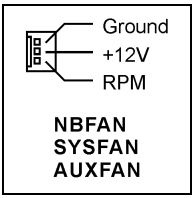
(2). FAN コネクタ

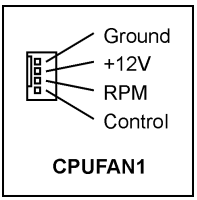
これらコネクタはそれぞれシステムにインストールされたクーリングファンに電源を供給します。

- **CPUFAN1：**CPU ファン
- **NBFAN1：**チップセットファン
- **SYSFAN1：**システムファン
- **AUXFAN1, AUXFAN2：**補助ファン

警告：これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。



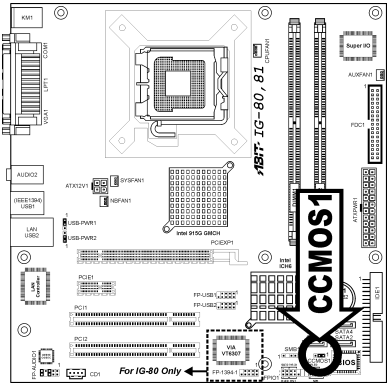


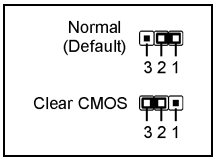


(3). CMOS メモリクリアリングヘッダ

このヘッダはジャンパキャップを使用して CMOS メモリを消去します。

- **短いピン 1-2 (デフォルト) :** 標準操作
- **短いピン 2-3 :** CMOS メモリの消去



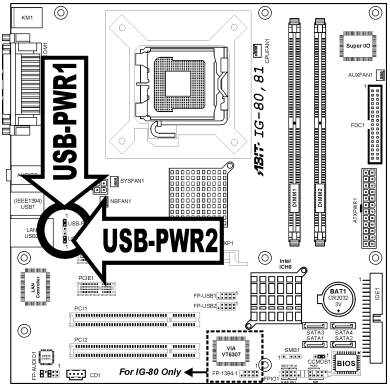


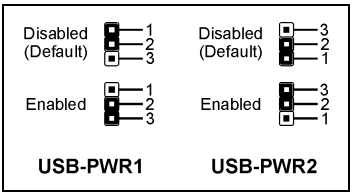
警告 : CMOS メモリをクリーニングする前に、まず(+5V スタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。

(4). ウェークアップヘッダ

- **USB-PWR1：**
  ピン 1-2 ショート（デフォルト）：USB1 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート：USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

- **USB-PWR2:**
  ピン 1-2 ショート（デフォルト）：USB2 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート：USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

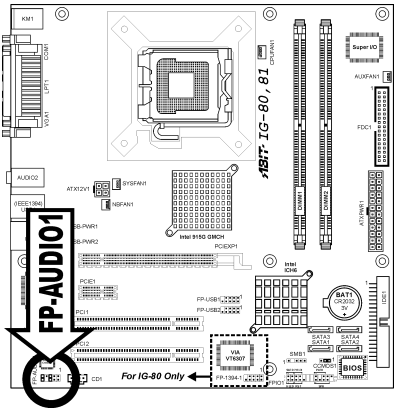


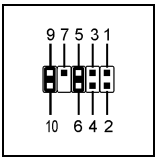


(5). フロントパネルオーディオ接続ヘッダ

このヘッダは、フロントパネルのオーディオコネクタへの接続を提供します。

- フロントパネルでオーディオコネクタを使用するには、このヘッダのすべてのジャンパを取り外し、シャーシに付属する延長ケーブルによってフロントパネルに接続します。
- リアパネルでオーディオコネクタを使用するには、延長ケーブルを切り離し、ジャンパをピン 5-6 とピン 9-10 の後ろに取り付けます（デフォルトの設定）。

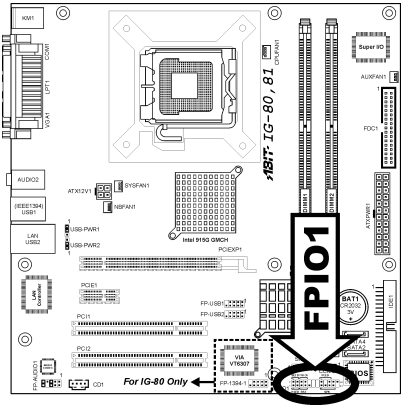


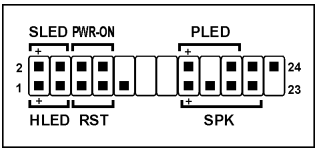
	ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
	1	オーディオ Mic.	2	アース
	3	オーディオMic.バイアス	4	VCC
	5	スピーカーアウト右チャンネル	6	スピーカーアウト右チャンネル復帰
	7	X	8	NC
	9	スピーカーアウト左チャンネル	10	スピーカーアウト左チャンネル復帰

(6). フロントパネルスイッチとインジケータヘッダ

このヘッダは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことですが、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。

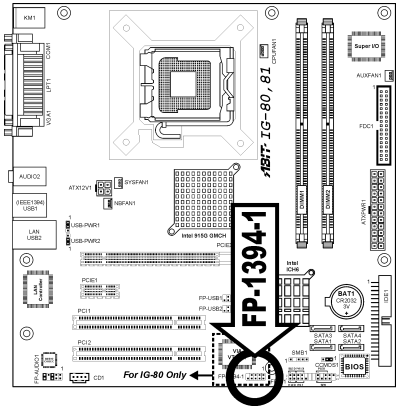


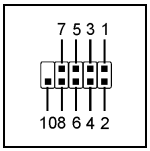


- **HLED（ピン 1、3）：**
  シャーシの前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST（ピン 5、7）：**
  シャーシの前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPK（ピン 15、17、19、21）：**
  シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED（ピン 2、4）：**
  シャーシの前面パネルのサスペンド LED ケーブルに接続します(ケーブルがある場合)。
- **PWR-ON（ピン 6、8）：**
  シャーシの前面パネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED（ピン 16、18、20）：**
  シャーシの前面パネルの電源 LED ケーブルに接続します。

(7). 追加 IEEE1394 ポートヘッダ *(IG-80)*

これらのヘッダは延長ケーブルとブラケットを通して、それぞれ 1 つの追加 IEEE1394 ポートを提供します。

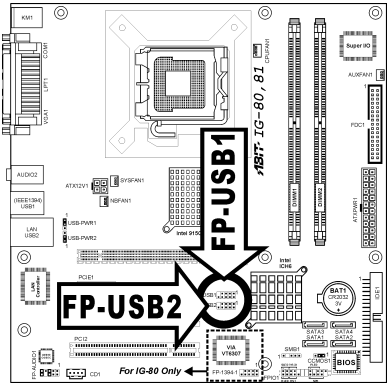


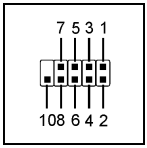


ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
1	TPA0 +	2	TPA0 -
3	アース	4	アース
5	TPB0 +	6	TPB0 -
7	+12V	8	+12V
9	NC	10	アース

(8). 追加 USB ポートヘッダ

これらのヘッダは延長ケーブルとブラケットを通して、それぞれ 2 つの追加 USB 2.0 ポートを提供します。

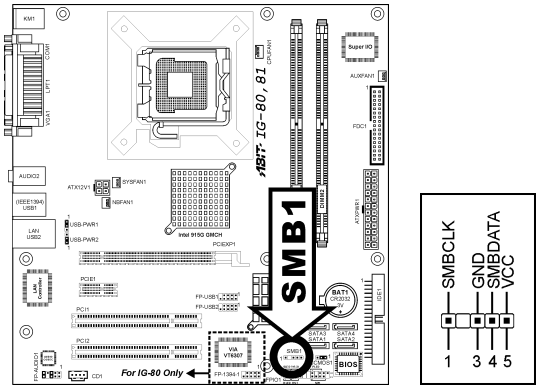




ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
1	VCC	2	VCC
3	データ 0 -	4	データ 1 -
5	データ 0 +	6	データ 1 +
7	アース	8	アース
9	NC	10	NC

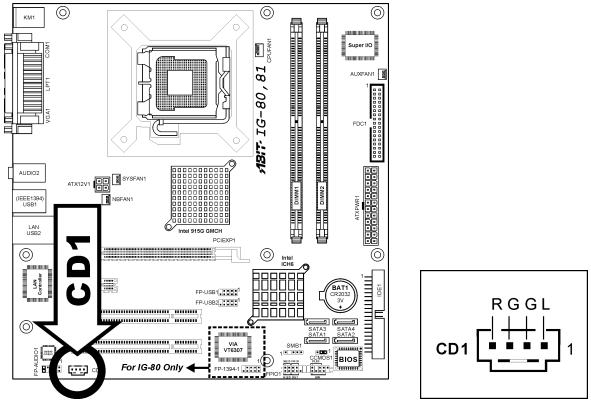
(9). システム管理バスヘッダ

このヘッダは、システム管理バス(SM バス)用に用意されています。SM バスは I^2C バスを特殊に変更したものです。I^2C はマルチマスタバスですが、これは複数のチップを同じバスに接続し、それぞれのチップをデータ転送を初期化することによってマスタとして機能できるようにすることを意味します。複数のマスタが同時にバスをコントロールしようとすると、仲裁手順がどのマスタに優先権を与えるかを決定します。

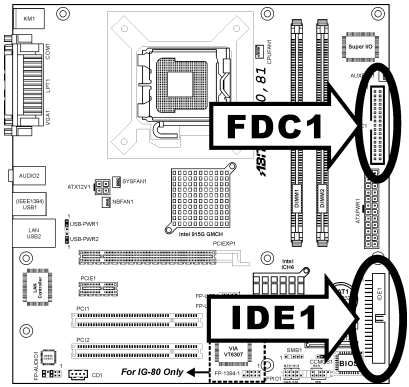


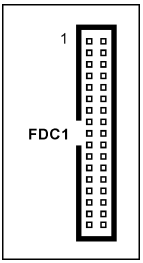
(10). 内部オーディオコネクタ

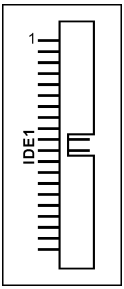
これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続されています。



(11). フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ





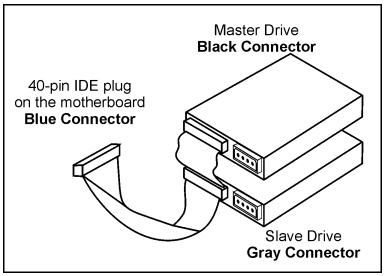


FDC1 コネクタは 34 ワイヤ、2 コネクタフロッピーケーブルで最大 2 つのフロッピードライブを接続することができます。リボンケーブルの長い方にある 1 つのコネクタをボードの FDC1 に接続し、もう片方の 2 つのコネクタをフロッピーディスクドライブに接続してください。通常、システムに必要なフロッピーディスクドライブは 1 つだけです。

注: リボンケーブルの赤い線は FDC1 ポートとフロッピーコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

各 IDE ポートコネクタには、40 ピン、80 コンダクタ、3 コネクタの Ultra ATA/66 リボンケーブルを使って Ultra ATA/100 モードで最大 2 つの IDE ドライブを接続することができます。

リボンケーブルの長い方の端 (青いコネクタ) をこのボードの IDE ポートに接続し、短い方の端に付いた 2 つのコネクタ (灰色と黒のコネクタ) をハードドライブのコネクタに接続してください。

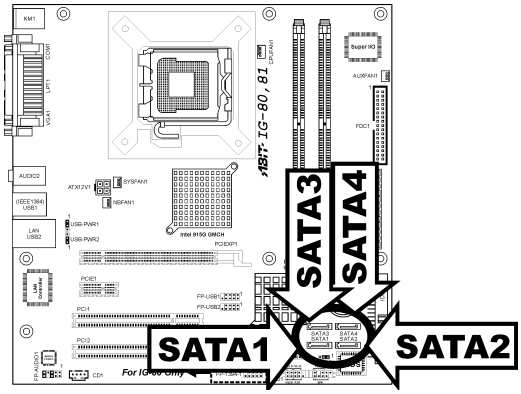


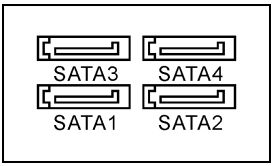
注: リボンケーブルで 2 つのドライブを接続する前に、"Master" と "Slave" 関係を設定してください。リボンケーブルの赤い線は IDE ポートとハードドライブコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

(12). シリアル ATA コネクタ

これらのコネクタは、シリアル ATA ケーブルを介して、各チャネルに 1 つのシリアル ATA デバイスを接続するために提供されています。

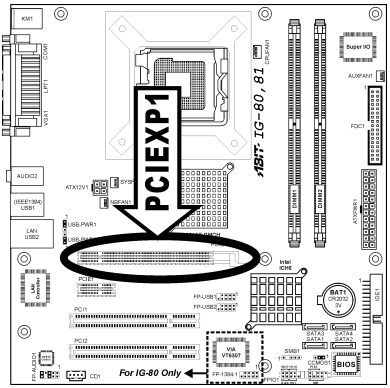
SATA の機能モードの設定方法についての詳細は、BIOS メニューの “OnChip IDE Device” に含まれる “On-Chip Serial ATA” アイテムをご覧下さい。

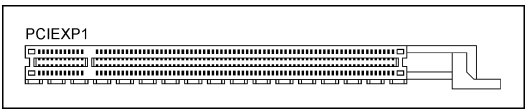




(13). PCI Express X16 スロット

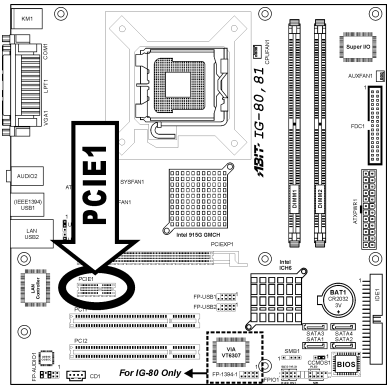
このスロットは、次世代のグラフィック・アーキテクチャ接続用です。

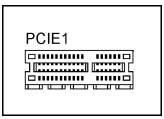




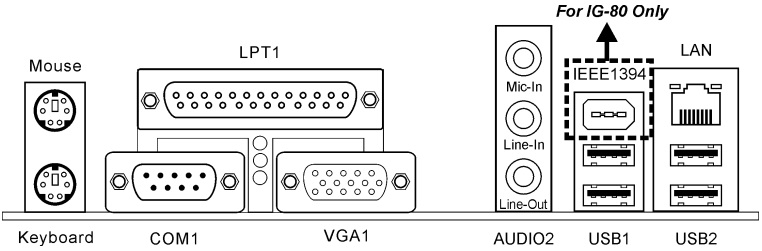
(14). PCI Express X1 スロット

これらのスロットは、次世代の I/O アーキテクチャ接続用です。





(15). バックパネルのコネクタ



- **マウス：**PS/2 マウスに接続します。
- **キーボード：**PS/2 キーボードに接続します。
- **LPT1：**この通信プロトコルをサポートするプリンタやその他のデバイスに接続します。
- **COM1：**この通信プロトコルをサポートする外部モデム、マウスまたはその他のデバイスに接続します。
- **VGA1:** モニターの入力に接続する。
- **AUDIO2：**
  Mic-In：外部マイクからプラグに接続します。
  Line-In：外部オーディオソースからラインアウトに接続します。
  Line-Out：5.1 チャネルまたは通常の 2 チャネルオーディオシステムの前面左と前面右チャネルに接続します。
- **IEEE1394：**IEEE1394 プロトコルのデバイスに接続します。***(IG-80)***
- **LAN：**構内通信網（LAN）に接続します。
- **USB1/USB2：**スキャナ、デジタルスピーカー、モニタ、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。

第 3 章　BIOS について

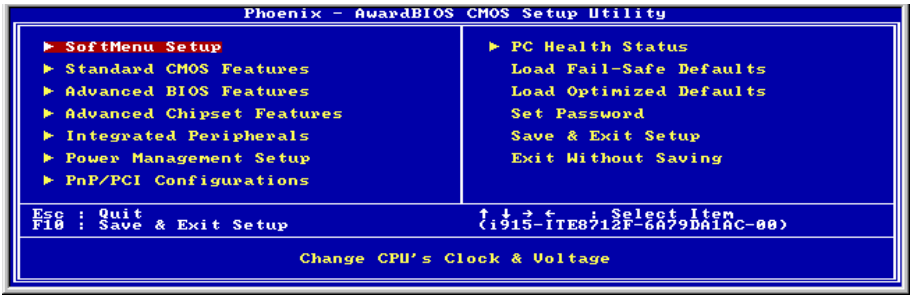
このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときにだけ、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl> + <Alt> + <Del>キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してステムを再起動します。これらの 2 つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

<Del>キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。



注 : システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

3-1. SoftMenu Setup

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。

Brand Name:

このアイテムは CPU のモデル名、例えば Pentium (R) 4 を表示します。

Frequency:

本アイテムはプロセッサ速度を表示します。

Cache Size:

本アイテムは CPU の L2 キャッシュサイズを表示します。

CPU Operating Speed:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

User Define:

警告 : クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのためで、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

❋ **External Clock:**

このアイテムは、外部ロック周波数を選択します。

❋ **Multiplier Factor:**

このアイテムはロックされていなければ、CPU の乗数を選択します。

❋ **Estimated new CPU Clock:**

このアイテムは前のアイテム[External Clock]と[Multiplier Factor]により合計された周波数を表示します。

❋ **N/B Strap CPU As:**

このアイテムは、メモリコントローラハブ（MCH）に割り当てられた外部ハードウェアリセットストラップを設定します。オプションは [PSB533]、[PSB800]と[By CPU]です。デフォルトの設定は[By CPU]です。

このオプションを手動で設定するには、次の手順を実行します。

- 133MHz FSB 周波数の CPU に対して [PSB533] を選択します。
- 200MHz FSB 周波数の CPU に対して [PSB800] を選択します。

❋ **DRAM Ratio (CPU:DRAM):**

このアイテムは、CPU と DRAM の間で周波数比を決定します。

❋ **PCI Express Frequency:**

このアイテムは、PCI Express の周波数を決定します。

❋ **Fixed PCI Frequency:**

このアイテムは、PCI バス周波数を決定します。このオプションでは、一定の固定周波数で PCI クロックを維持し、システムの安定性の向上を図ります。

Voltage Control:

このアイテムは、システムに供給される電圧を選択します。

次のアイテムを手動で調整するには、「Manual」（手動）オプションを選択します。

❋ **CPU Core Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

注意：間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

❋ **DDR SDRAM Voltage:**

このアイテムは、メモリスロットに供給される電圧を選択します。

❋ **NB Voltage:**

このアイテムは、ノースブリッジに供給される電圧を選択します。

3-2. Standard CMOS Features

Date (mm:dd:yy):

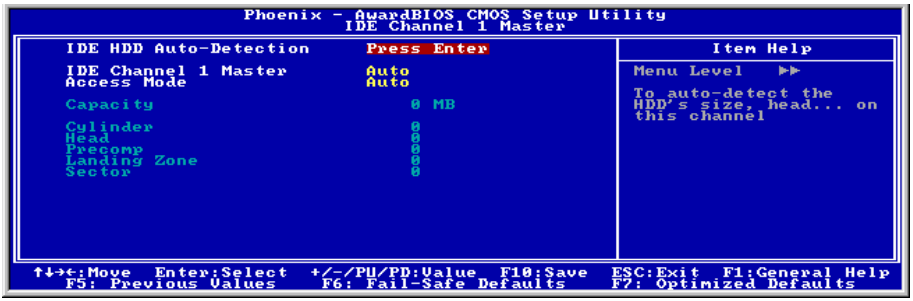
このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

IDE Channel 1 Master/Slave, IDE Channel 2 Master/Slave, IDE Channel 3 Master/Slave, IDE Channel 4 Master/Slave:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



注: “IDE Channel 3 Master/Slave” と “IDE Channel 4 Master/Slave” のアイテムは、“OnChip IDE Device” メニューの “On-Chip Serial ATA” が [Enhanced Mode] に設定されている場合か、または SATA ポートがデバイスに接続され、[Auto Mode] に設定されている場合にのみ表示されます。

IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

IDE Channel 1 Master/Slave, IDE Channel 2 Master/Slave, Extended IDE Drive:

[Auto] (自動) に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual] (マニュアル) に設定し、パラメータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

Access Mode:

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] (自動) 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

Capacity:

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなっています。

Cylinder:

このアイテムはシリンダの数を構成します。

Head:

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

Precomp:

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

Landing Zone:

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

Sector:

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

➪ Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります：

Drive A & Drive B:

このアイテムは取り付けたフロッピードライブ（通常、ドライブ A のみ）のタイプを設定します。

Floppy 3 Mode Support:

このアイテムによって、日本のコンピュータシステムの「3 モードフロッピードライブ」を使用し、ドライブ A、B、または AB 両方のドライブを選択することができます。日本標準のフロッピードライブを使用しない場合、デフォルトの [Disabled] (使用不可能) 設定のままにしてください。

Halt On:

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

[All Errors]: システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

[No Errors]: システムブートは、エラーを検出すると停止します。

[All, But Keyboard]: システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Diskette]: システムブートは、ディスケットエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Disk/Key]: システムブートは、ディスケットまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

Base Memory:

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

Extended Memory:

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

Total Memory:

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

3-3. Advanced BIOS Features

CPU L3 Cache:

これは L3 キャッシュ（初期設定）を有効にするために使用するもので、L3 キャッシュを持つ特定の CPU (Intel Pentium 4 プロセッサと HT Technology Extreme Edition の組み合わせ)のみに使用できます。

Hyper-Threading Technology

このアイテムは、ハイパースレッド･テクノロジーを搭載したプロセッサの機能を可能にし、このタイプのプロセッサを使用している場合にのみ表示されます。

ハイパースレッド･テクノロジーは、プロセッサのリソースを最大化することでパソコンの性能を向上し、1 つのプロセッサで 2 つの独立したソフトウェアスレッドを同時に稼動させることを可能にします。このため、複数アプリケーションを実行中に従来の 4 倍のシステム性能と反応を実現させることができます。

Quick Power On Self Test:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムはシステムの電源をオンにした後電源オンセルフテスト(POST)の速度を上げます。BIOS は POST の間いくつかのチェックを短縮したりスキップします。

CPU Feature:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Delay Prior to Thermal:

このアイテムは、熱活性化前の遅延時間を選択します。

Thermal Management

このアイテムは、熱モニタリングのタイプを選択します。

Limit CPUID MaxVal

[Enabled]に設定しているとき、このアイテムは通常、Windows NT4.0 のような古い OS で要求される CPUID の最大値を 3 に制限します。

Windows XP のような OS に対しては、このアイテムをデフォルトの[Disabled]設定のままにしておいてください。

➪ Advanced BIOS Features Setup Menu に戻ります：

Hard Disk Boot Priority:

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用に選択することができます。

このアイテムは、1 次/2 次/3 次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第 1 ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第 2 ブートデバイス)、[Third Boot Device](第 3 ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第 1、第 2、第 3 ドライブを選択します。BIOS は選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の 3 つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

Swap Floppy Drive:

[Enabled] (使用可能) に設定しているときに、システムをフロッピードライブから起動すると、システムは通常のドライブ A の代わりにドライブ B から起動します。この機能を使用するには、システムに 2 基のフロッピードライブを接続している必要があります。

Boot Up Floppy Seek:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、BIOS はフロッピーディスクドライブがインストールされているかどうかをチェックします。

Boot Up NumLock Status:

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On]：数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off]：矢印キーとしての数値キーパッド機能。

Security Option:

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき – システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

注：パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

MPS Version Control For OS:

この項目は、このマザーボードが使用する MPS（多重プロセッサ仕様）のバージョンを指定します。このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

OS Select For DRAM > 64MB:

このアイテムにより、OS/2 で 64MB 以上のメモリにアクセスできます。OS/2 以外のオペレーティングシステムの場合、このアイテムをデフォルトの[非 OS2]設定のままにしておいてください。

Report No FDD For WIN 95:

[Enabled] (使用可能) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

Delay IDE Initial (Secs):

このアイテムにより、BIOS は遅延時間を引き延ばすことによって一部の古いまた特殊な IDE デバイスをサポートすることができます。値を大きくすると、デバイスを初期化したり動作できる準備をするための遅延時間が長くなります。

Intel OnScreen Branding:

この項目は、システム起動時に「Intel Inside」ロゴの表示または非表示を決定します。

Disable Unused PCI Clock:

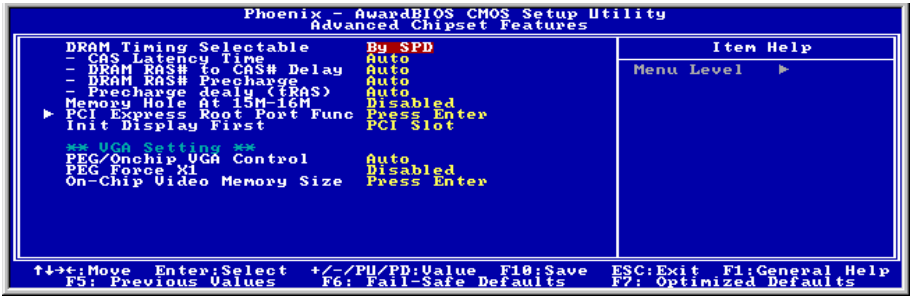
このオプションは、使用されていない PCI スロットのクロックを使用不可能にします。

[Yes]: システムは未使用の DIMM と PCI スロットを自動的に検出し、これらの未使用 PCI スロットへのクロック信号の送信を停止します。

[No]: システムはすべての PCI スロットにクロック信号をたえず送信します。

注：システムが自動的に検出できないアダプタがある場合、このオプションを[いいえ]に設定すると、誤動作の原因となります。

3-4. Advanced Chipset Features



DRAM Timing Selectable:

この項目は、次の 4 つの項目に対し、使用しているメモリモジュールに従って、最適のタイミングを設定します。デフォルトの設定「SPD による」は、SPD（シリアルプレゼンスの検出）デバイスのコンテンツを読み取ることによって、これら 4 つの項目を構成します。メモリモジュール上の EEPROM は、メモリの種類、サイズ、速度、電圧インターフェイス、およびモジュールバンクなどの、モジュールに関するクリティカルパラメータ情報を格納します。

❋ **CAS Latency Time:**

この項目は、DRAM 読み取りコマンドとデータが実際に使用できる時間との間の待ち時間を制御します。

❋ **DRAM RAS# to CAS# Delay**

この項目は、DRAM アクティブコマンドと読み取り/書き込みコマンドの間の待ち時間を制御します。

❋ **DRAM RAS# Precharge:**

プリチャージコマンドを DRAM に発行すると、この項目はアイドルクロックをコントロールします。

❋ **Precharge Delay (tRAS):**

このアイテムは、DRAM パラメータで使用する DRAM クロックの番号を制御します。

Memory Hole At 15M-16M:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、15M-16M のメモリアドレススペースがこの設定を特別に要求する ISA 拡張カード用に予約されます。これにより、システムで利用できない 15MB 以上のメモリが作成されます。このアイテムは、デフォルトの設定のままにしておいてください。

➪ PCI Express Root Port Func:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

PCI Express Slot 1:

このオプションは PCI Express ポート機能を有効または無効にします。

PCI-E Compliancy Mode:

このアイテムは PCI Express 拡張カードのモードを選択します。

➪ Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:

Init Display First:

このアイテムは、システムが起動するとき“Onboard”、“PCI スロット”または“PCIEX スロット”をまず初期化するために選択します。

PEG/Onchip VGA Control:

このアイテムは、システムを起動するとき、「Onchip VGA」または「PEG ポート」から初期化する設定を選択します。

このアイテムは、デフォルトの[Auto]設定のままにしておいてください。

PEG Force X1:

[Enabled]に設定するとき、このアイテムは PEG ポートを x1 モードに強制的に落とします。

On-Chip Video Memory Size:

このオプションは、AGP デバイスが使用できるシステムメモリの量を指定します。アパチャはグラフィックスメモリアドレススペース用に割り当てられた PCI メモリアドレス範囲の一部分です。

3-5. Integrated Peripherals

OnChip IDE Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

IDE Bus Master:

このオプションは、DOS 環境の下で IDE バスマスタリング機能の有効/無効を切り替えます。

On-Chip IDE-1 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

On-Chip Serial ATA:

この項目は、オンチップシリアル ATA の機能を決定します。

[Disabled（無効）]: シリアル ATA コントローラを無効にします。

[Auto（自動）]: シリアル ATA コントローラを BIOS によって自動的に配列できます。

[Combined Mode（結合モード）]: パラレル ATA とシリアル ATA がともに結合されます。最高 4 つの IDE ドライブをサポートします。

[Enhanced Mode（拡張モード）]: パラレル ATA とシリアル ATA をともに有効にします。最高 6 つの IDE ドライブをサポートします。

[SATA Only（SATA のみ）]: SATA はレガシーモードで動作します。

モード	IDE チャンネル 1 マスター	IDE チャンネル 1 スレーブ	IDE チャンネル 2 マスター	IDE チャンネル 2 スレーブ	IDE チャンネル 3 マスター	IDE チャンネル 3 スレーブ	IDE チャンネル 4 マスター	IDE チャンネル 4 スレーブ
Enhanced (エンハンス)	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	なし	なし	SATA1	SATA3	SATA2	SATA4
Combined (混合)	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	SATA2	SATA4	なし	なし	なし	なし
SATA Only (SATA のみ)	SATA1	SATA3	SATA2	SATA4	なし	なし	なし	なし

注: [Enhanced Mode] のオプションは Windows 98/ME オペレーティング･システムには対応していません。

❋ **Parallel ATA Mode:**

このアイテムは "IDE1" コネクタの機能モードを決定します。

[IDE1]: “IDE1” コネクタが [Primary Master] と [Primary Slave] チャンネルとして働きます。“SATA2” と "SATA4" コネクタが [Secondary Master] と [Secondary Slave] チャンネルとして働きます。残りの “SATA1” と “SATA3” コネクタは無効です。

[IDE2]: “IDE1” コネクタが [Secondary Master] と [Secondary Slave] チャンネルとして働きます。“SATA1” と "SATA3" コネクタが [Primary Master] と [Primary Slave] チャンネルとして働きます。残りの “SATA2” と “SATA4” コネクタは無効です。

IDE と SATA ポートの関係については下表を参照してください。

PATA IDE モード	IDE チャンネル 1 マスター	IDE チャンネル 1 スレーブ	IDE チャンネル 2 マスター	IDE チャンネル 2 スレーブ	IDE チャンネル 3 マスター	IDE チャンネル 3 スレーブ	IDE チャンネル 4 マスター	IDE チャンネル 4 スレーブ
Primary (プライマ)リ	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	SATA2	SATA4	なし	なし	なし	なし
Secondary (セカンダリ)	SATA1	SATA3	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	なし	なし	なし	なし

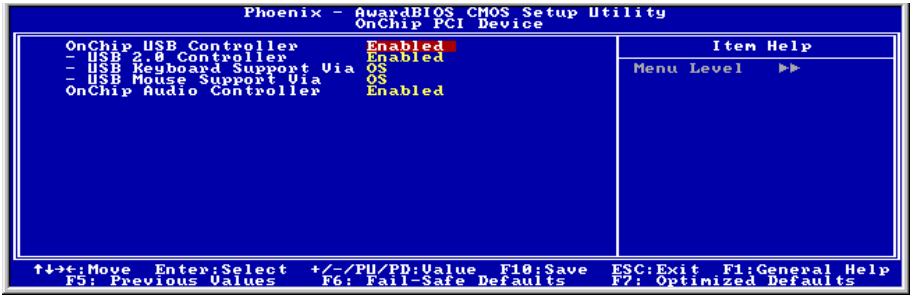
注: このオプションは、[On-Chip Serial ATA] が [Combined Mode] に設定されている場合のみ設定可能です。

❋ **Serial ATA Mode:**

このアイテムは SATA ポートの様々なモードを表示します。

OnChip PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



OnChip USB Controller:

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。

❋ **USB 2.0 Controller:**

このアイテムはオンボード USB 2.0 コントローラを使用できるようにします。

❋ **USB Keyboard Support Via:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB キーボードを使用するための[**BIOS**]を、または、または OS 環境では[**OS**]を選択することができます。

❋ **USB Mouse Support Via:**

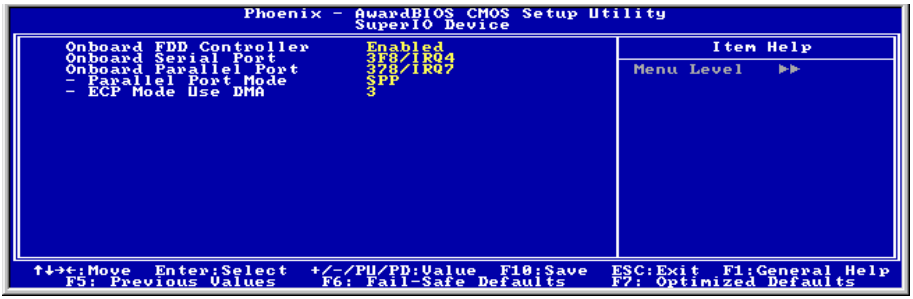
このアイテムにより、DOS 環境で USB マウスを使用するための[**BIOS**]を、または、または OS 環境では[**OS**]を選択することができます。

OnChip Audio Controller:

このアイテムはオンボードオーディオコントローラを使用できるようにします。

SuperIO Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



Onboard FDD Controller:

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。

Onboard Serial Port:

このアイテムは、どの I/O アドレスにオンボードのシリアルポートコントローラがアクセスするかを決定します。

[Auto]：システムは、オンボードシリアルポートの I/O アドレスを自動的に選択します。

[3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3]：オンボードシリアルポートの I/O アドレスを手動で選択できるようにします。

[Disabled]：オンボードシリアルポートを個別にまたは同時に使用不可能に設定します。

Onboard Parallel Port:

このアイテムは、パラレルポートが使用する I/O アドレスを指定します。

[Disabled]：このオプションは、パラレルポートがシステムリソースに一切アクセスできないようにします。このオプションの値が*使用不可能*に設定されていると、プリンタポートは使用できません。

[378/IRQ7]：このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[378/IRQ7]を使用できるようにします。コンピュータシステムの大多数のパラレルポートは、標準設定として IRQ7 と I/O ポート 378H を使用します。

[278/IRQ5]：このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[278/IRQ5]を使用できるようにします。

[3BC/IRQ7]：このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[3BC/IRQ7]を使用できるようにします。

❋ **Parallel Port Mode:**

このアイテムは、パラレルポートのモードを指定します。

[SPP]：標準速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[EPP]：最高速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[ECP]：標準モードのデータ転送速度より高速で双方向のパラレルポート操作を可能にします

[ECP+EPP]: ECP と EPP モードでパラレルポート動作を可能にします。

❋ **ECP Mode Use DMA:**

このアイテムは、パラレルポートの DMA チャネルを選択します。

Onboard PCI Device:

Click <Enter> key to enter its submenu:

IEEE 1394 Controller: ***(IG-80)***

このアイテムはオンボード IEEE 1394 コントローラを使用できるようにします。

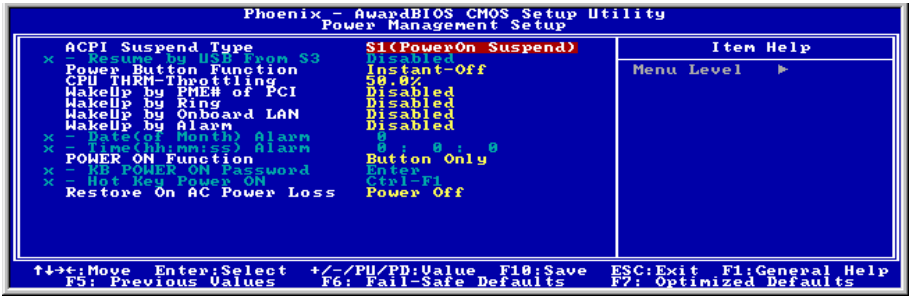
Network Controller:

このアイテムはオンボード LAN コントローラを使用できるようにします。

❋ **Invoke Boot Agent:**

このアイテムにより、（ディスクドライブの代わりに）ブート ROM を使用して、システムを起動し、構内通信網に直接アクセスできます。

3-6. Power Management Setup



ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(PowerOn-Suspend)]：電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(Suspend-To-RAM)]：サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

Resume by USB From S3:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムにより USB デバイスを使用して S3 (STR – RAM にサスペンド)状態にあるシステムを呼び起こすことができます。このアイテムは、アイテム“ACPI サスペンドタイプ”が[S3(STR)]に設定されているときのみ構成できます。

Power Button Function:

このアイテムは、システムの電源をオフにする方法を選択します。

[Delay 4 Sec.]: 電源ボタンを 4 秒以上長く押し続けていると、システムの電源がオフになります。これにより、電源ボタンにうっかり触れたり押したりした場合にシステムの電源がオフになることを防ぐことができます。

[Instant-Off]: 電源ボタンを一度押してから離すと、直ちにシステムの電源がオフになります。

CPU THRM-Throttling

このアイテムは、STR (RAM へのサスペンド) 状態の間、その通常の電力をあるパーセンテージに切り下げることで CPU 速度を制御します。

WakeUp by PME# of PCI:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

WakeUp By Ring:

次の 2 つのアイテム、Disabled（使用しない）または Enabled（使用する）が設定できます。デフォルトは *Disabled（使用しない）*です。*Enabled（使用しない）*に設定するとき、モデムリングに影響を及ぼすイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起こします。

WakeUp by Onboard LAN:

[有効]に設定しているとき、呼び起こし機能をサポートする LAN カードを介し、ソフトオフ状態で PC をリモートから呼び起こすことができます。

WakeUp by Alarm:

[Enabled] (**使用可能**) に設定すると、"**日 (月の) アラーム**"および"**時 (hh:mm:ss) アラーム**"アイテムでソフトオフ PC の電源をオンにしたい日と時間を設定できます。ただし、システムがこれらのアイテムで設定された日と時間より前に入電またはネットワーク(レジュームオンリング/LAN)によりアクセスされると、システムは入電やネットワークに優先順位を与えます。

❋ **Date (of Month) Alarm**

[0]: このオプションは、"時 (hh:mm:ss) アラーム"アイテムで設定された時間に従って毎日システムの電源をオンにします。

[1-31]: このオプションは、システムの電源をオンにする日を選択します。システムは設定された日、および"時 (hh:mm:ss) アラーム"アイテムで設定された時間に電源がオンになります。

❋ **Time (hh:mm:ss) Alarm**

このアイテムは、システムの電源をオンにする時間を設定します。

POWER ON Function:

このアイテムは、システムの電源をオンにする方法を選択します。

[Password]: パスワードを使用してシステムの電源をオンにします。このオプションを選択してから、<Enter>を押してください。パスワードを入力してください。最大 5 文字まで入力できます。正確に同じパスワードを入力して確認したら、<Enter>を押します。

[Hot KEY]: <F1> から <F12>までのどれかの機能を使用して、システムの電源をオンにします。

[Mouse Left]: マウスの左ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Mouse Right]: マウスの右ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Any KEY]: キーボードの任意のキーを使用して、システムの電源をオンにします。

[Button Only]: 電源ボタンのみを使用して、システムの電源をオンにします。

[Keyboard 98]: "Keyboard 98"互換キーボードの電源オンボタンを使用して、システムの電源をオンにします。

注：この「電源オン」機能を有効にするには、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の呼び起こしヘッダを[Enabled（有効）]の位置に設定する必要があります。第 2 章、2-4 項の「呼び起こしヘッダ”[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の構成を参照してください。

マウスの呼び起こし機能は、COM ポートや USB タイプではなく、PS/2 マウスでのみ使用可能です。一部の PS/2 マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

❋ **KB Power ON Password:**

このアイテムは、コンピュータの電源をオンにするために必要なパスワードを設定します。

注：パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再び利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

❋ **Hot Key Power ON:**

このアイテムは、<Ctrl>キーと機能キー(<F1> ~ <F12>)のどれかを同時に押すことによって、システムの電源をオンにします。

Restore On AC Power Loss:

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

[Power Off]: AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

[Power On]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

[Last State]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。.

3-7. PnP/PCI Configurations

Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

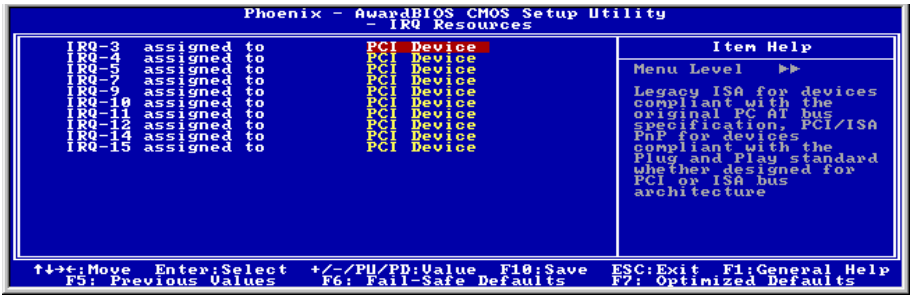
[Auto]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

❋ **IRQ Resources:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス] または [予約済み]に設定します。



PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは､MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

Allocate IRQ To Video :

このアイテムは、取り付けた VGA カードの IRQ を割り当てます。

[Enabled] : 取り付けた VGA カードの IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled] : VGA カードによって以前に占有された IRQ は、新しいデバイスでも使用できます。

Allocate IRQ To USB

このアイテムは、接続されている USB デバイスに対して IRQ を割り当てます。

[Enabled]: 接続されている USB デバイスに対して IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled]: 接続されている USB デバイスによって以前占有されていた IRQ は、新しいデバイスに対して利用できます。

PCI Latency Timer(CLK):

このアイテムは、各 PCI デバイスが他の PCI デバイスにタスクを引き渡すまでのバスの保持時間を制御します。値を高く設定すると、それぞれの PCI デバイスは長い時間トランザクションを実行しそれによって PCI のバンド幅を改善することができます。PCI 性能を高めたい場合、アイテムに高い値を設定して下さい。

PIRQ_0 Use IRQ No. ~PIRQ_7 Use IRQ No. :

このアイテムは、PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

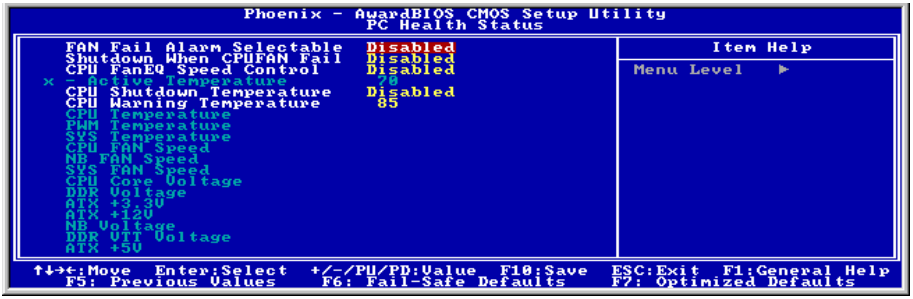
PIRQ (ICH チップセットからの信号)、INT# (PCI スロット IRQ 信号のことです) のハードウェアレイアウト間の関係については、下の表を参照してください。

信号	PCI EXP1	LAN	PCI-E1	PCI-1	PCI-2	IEEE-1394
PIRQ_0 割り当て	INT A	INT A	INT D			INT D
PIRQ_1 割り当て		INT B	INT A			INT A
PIRQ_2 割り当て		INT C	INT B			INT B
PIRQ_3 割り当て		INT D	INT C			INT C
PIRQ_4 割り当て				INT D	INT C	
PIRQ_5 割り当て				INT A	INT B	
PIRQ_6 割り当て				INT B	INT A	
PIRQ_7 割り当て				INT C	INT D	

Maximum Payload Size:

このアイテムは、PCI Express デバイスに対して最大の TLP プレイロードサイズを設定します。

3-8. PC Health Status



FAN Fail Alarm Selectable:

このアイテムは、誤動作を監視するファンを選択します。

Shutdown When CPU FAN Fail:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、システムは CPU ファンが作動していないときに停止します。

注：このアイテムは ACPI 有効の OS でのみ有効です。

CPU FanEQ Speed Control:

このアイテムによって、CPU のファン速度を特定のパーセンテージに下げるように制御できます。

特定のパーセンテージに設定されているとき、アイテム「動作温度」で設定されている温度制限を超えない場合、CPU のファン速度はこのアイテムで設定したパーセンテージで動作します。

CPU のファン速度は、アイテム「動作温度」で設定されている温度制限を超える場合、この制限で設定されたパーセンテージには関わらず、100%で動作します。

❋ **Active Temperature:**

この項目は、「CPU FanEQ 速度コントロール」オプションの機能をアクティブにする温度の上限を設定します。

CPU Shutdown Temperature:

このアイテムは、システムが過熱しないようにシステムを自動的に停止する温度を設定します。

注：このアイテムは ACPI 有効の OS でのみ有効です。

CPU Warning Temperature:

このアイテムは、CPU の警告温度の限界を選択します。システムが CPU の温度が限界を超えていることを検出すると、警告音が鳴ります。

注 : オンボードハードウェア監視機能は、これらのシステムヘルス状態を検出できます。異常な状態が発生したとき、警告メッセージを表示したり警告アラームを鳴らしたい場合、“ハードウェアドクター”ユーティリティをインストールする必要があります。このユーティリティは本マザーボードに付属する“ドライバとユーティリティ CD”に含まれています。

All Voltages, Fans Speed and Thermal Monitoring:

CPU と環境の温度、ファンの回転速度、システムの電源の電圧を表示します。これらの値は変更できません。

注: 温度、ファンの回転速度、電圧を測定するためのハードウェア監視機能を有効にする場合は、294H から 297H までの I/O アドレスを使用します。ネットワークアダプタ、サウンドカード、またはこれらの I/O アドレスを使用する可能性のあるアドオンカードが装着されている場合は、競合を避けるためにアドオンカードの I/O アドレスを調整してください。

3-9. Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-10. Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-11. Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

3-12. Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

3-13. Exit Without Saving

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。

第 4 章　ドライバのインストール

必要なすべてのドライバは、マザーボードに付属するドライバとユーティリティ CD に含まれています。ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、次の図に示されるディスプレイが直ちに表示されます。表示されない場合、 ➔ [マイコンピュータ] ➔ [CD-ROM] ドライブ ➔ に移動し、[autorun.exe]をダブルクリックしてください。オンスクリーンの指示に従ってください。

4-1. セットアップアイテム

- **Intel チップセットソフトウェアユーティリティ**
  Windows オペレーティングシステム用の Intel チップセットソフトウェアユーティリティをインストールします。
- **オーディオドライバ**
  Windows オペレーティングシステム用のオンボードオーディオドライバをインストールします。
- **VGA ドライバ**
  Windows オペレーティングシステム用のオンボード VGA ドライバをインストールします。
- **LAN ドライバ**
  Windows オペレーティングシステム用のオンボード LAN ドライバをインストールします。
- **USB 2.0 ドライバ**
  Windows アップデートプログラムを通して、Windows 2000/XP オペレーティングシステムを更新します。
- **マニュアル**
  PDF ファイルでユーザーズマニュアルを表示します。
- **ユーティリティ**
  Acrobat Reader、DirectX、LoFormat ユーティリティのようなソフトウェアをインストールするには、サブ画面をクリックしてください。
- **ABIT ユーティリティ**
  Flash メニュー (BIOS 更新ユーティリティ)や Hardware Doctor のようなユーティリティをインストールするには、サブ画面をクリックします。
- **CD の閲覧**
  この CD-ROM のコンテンツを閲覧します。
- **閉じる**
  CD セットアップアイテムのメニューを終了します。

付録 A. テクニカルサポートの受け方について

（ホームページ）http://www.abit.com.tw
（米国）http://www.abit-usa.com
（ヨーロッパ）http://www.abit.nl

ABIT 社の製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABIT はディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様に直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABIT ではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがいまして、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承いただきますようお願い申し上げます。

ABIT は最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行ってみてください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力をお願いします。

1. **マニュアルをお読みください。**マニュアルの作成には万全の注を払っい、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外についても重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されている CD-ROM には、ドライバのほかにマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社の Web サイトまたは FTP サーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。

2. **最新の BIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。**弊社の Web サイトをご覧になり、バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンの BIOS をダウンロードしてください。**また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、最新バージョンのドライバをインストールしてください。**

3. **Web サイト上の専門用語集および FAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。**弊社では今後も引き続き FAQ を充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQ をご覧ください。

4. **インターネットニュースグループをご利用ください。**ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ（alt.comp.periphs.mainboard.abit）はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

   alt.comp.periphs.mainboard.abit
   alt.comp.periphs.mainboard
   comp.sys.ibm.pc.hardware.chips
   alt.comp.hardware.overclocking
   alt.comp.hardware.homebuilt
   alt.comp.hardware.pc-homebuilt

5. **リセラーへお問い合わせください。**技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずです。お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずです。詳しくはリセラーにお尋ねください。

6. **ABIT へお問い合わせください。**ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様にサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

北米、南米	***ABIT Computer (U.S.A.) Corporation*** 45531 Northport Loop West, Fremont CA, 94538, U.S.A. 電話: 1-510-623-0500 ファックス: 1-510-623-1092 営業: sales@abit-usa.com 南米営業: ventas@abit-usa.com マーケティング: marketing@abit-usa.com ウェブサイト: http://www.abit-usa.com
RMA センター	46808 Lakeview Blvd. Fremont, CA 94538, U.S.A.
英国、アイルランド	***ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.*** Unit 3, 24-26 Boulton Road, Stevenage, Herts SG1 4QX, UK 電話: 44-1438-228888 ファックス: 44-1438-226333 電子メール: sales@abitcomputer.co.uk
ドイツ、ベネルクス（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス	***AMOR Computer B.V. (ABIT's European Office)*** Jan van Riebeeckweg 15, 5928LG, Venlo, The Netherlands 電話: 31-77-3204428 ファックス: 31-77-3204420 営業: sales@abit.nl ウェブサイト: http://www.abit.nl
オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、スロバキア、クロアチア、ボスニア、セルビア、マケドニア	***Asguard Computer Ges.m.b.H*** Schmalbachstrasse 5, A-2201 Gerasdorf / Wien, Austria 電話: 43-1-7346709 ファックス: 43-1-7346713 電子メール: asguard@asguard.at
上海	***ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.*** 電話: 86-21-6235-1829 ファックス: 86-21-6235-1832 ウェブサイト: http://www.abit.com.cn
ロシア、CIS	***ABIT Computer (Russia) Co. Ltd.*** 営業: sales@abit.ru Info: info@abit.ru ウェブサイト: http://www.abit.ru

ポーランド	***ABIT Computer (Poland) Co. Ltd.*** Przedstawicielstwo w Polsce ul. Wita Stwosza 28, 50-149 Wrocław 電話: 48 71 780 78 65 / 66 ファックス: 48 71 372 30 87
日本	ウェブサイト: http://www.abit4u.jp
台湾本社 *(上記以外の地域へのサービス台湾は 8+ GMT 時間でお客様の地域とは休日が異なる可能性があります。)*	***ABIT Computer Corporation*** No. 323, Yang Guang St., Neihu, Taipei, 114, Taiwan 電話: 886-2-8751-8888 ファックス: 886-2-8751-3382 営業: sales@abit.com.tw マーケティング: market@abit.com.tw ウェブサイト: http://www.abit.com.tw

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。

8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその 1 つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。

ありがとうございました。

ABIT Computer Corporation

http://www.abit.com.tw